

「日々の理科」(第 3526 号) 2024, -4, -2
「青春 18 切符・日帰り大旅行 (14)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

岡谷駅を出た松本行き列車は、長大な塩嶺トンネルを抜けて、高台にある「みどり湖駅」に着きました。



かつて急行列車が健在だった頃は「辰野経由」と「みどり湖経由」の両系統があったのですが、今は特急はすべてみどり湖経由（ただし通過）、普通列車もほとんどは辰野を経由しなくなりました。



ほどなく列車は「塩尻駅」に到着します。松本行きの列車は、正確には中央本線を走るのはここまでで、ここからは「篠ノ井線（しののいせん）」に入り、松本や長野方面に直通します。当の中央本線はこの塩尻駅で大きく南西に折れて、木曾福島や名古屋方面に延びています。かつては直通列車もあったのですが、現在の中央本線の列車はほとんどがこの塩尻駅で分断され、ここを境に甲府・新宿方面は「中央東線」、木曾福島・名古屋方面は「中央西線」と呼ばれることもあります。

松本駅には定刻に到着しました。ここで折り返して、今度こそ東京に戻ろうと思っていたのですが、松本駅の電光掲示板がその計画を「邪魔」しました。



それは「大糸線・南小谷行き」という表示です。「南小谷（みなみおたり）・・・何と旅情をさそう駅名でしょう。かつて山岳部だった私にはなおさらで、大糸線沿線の駅は、北アルプスの玄関口として、思い出がたくさんあるのです。「有明駅」からは「燕岳（つばくろだけ）」、「白馬駅」からは「白馬三山」といった具合です。時刻表を開くと、終点まで行って帰りに普通列車ばかり乗り継いでも、当日中に東京に帰れることがわかりました。迷わず乗ってしまいました！



大糸線の向かいのホームには、改札なしで「アルピコ鉄道・上高地線」の電車が停まっています。この鉄道も、山岳部時代に穂高・檜（やり）方面に行くとき、何度も乗りました。一度など、新宿からの乗り換えが間に合わず、すでに発車した電車に向かって「乗せてくださいー！」と手を振ってみたら、停まって乗せてくれるという「神対応」もありました。昭和時代のなつかしい記憶を思い出しました。